

NPOかながわ環境カウンセラー協議会

KECA ニュース

NO.41

平成22年4月24日 発行

巻頭言

危機を乗り越えるために明るく楽しく活動しよう

理事長 杉浦弘祐

定時総会の時期が近づいてきました。本年は5月22日(土)13:00より波止場会館で開催致しますので会員各位の参加を是非お願い致します。

2009年度は予算額が収入増・支出減となり当初目標を上回る結果となりました。しかし2010年度は事業収入の減少が予想されます。EA21自治体イニシアティブ、グリーン化プログラムへの参加企業は100社を超え環境保全活動及び受益者支援への貢献は大きいものがありますが、集団指導のため収入の減少が予想されます。EA21支援事業は、KECAとして今後も取組んでいかなければならない事業であります。その一方で事業収入の減少が発生するとともに活動に取り組んでいる会員の負担も大きくなってきつつあります。

2010年度はこの危機を打開するために、積極的に2つ以上の新規事業を立上げEA21の事業収入に依存している現状を打破したいと考え、事業活動方針の施策の1つとして新規事業の立ち上げを取上げました。現在「環境教育事業」「環境経営支援事業」「省エネルギー支援事業」などを考えております。新規事業の立上げは受益者を増やす活動でありKECAの活動目的に沿ったものでもあります。幸いなことに支部・委員会の運営

や各種イベントのスタッフとして参加して下さる会員が増加しており、支部長や委員長がリーダーシップを発揮して活動すれば新規事業を立上げることが可能であると確信しております。会員各位におかれましては積極的に新規事業に参加することをお願い致します。

2009年度は、方針として掲げた「会員勧誘」「支部活動の活性化」「総合研修会の活性化」共に成果を上げ、更に「定款の改訂」「ホームページの充実」「パソコントラブルの解消」「文書及び資料の整備」等を行いKECAの課題の解決に取り組みました。

2010年度方針は、「内部体制及び体質の強化」「環境教育及び地域活動の活性化」「効率的な環境活動及び新規事業の立上げ」と致しました。事務局担当副理事長、支部担当副理事長、委員会担当副理事長からは具体的な活動方針が示されています。会員各位におかれましては各支部及び各委員会で検討し決定した事業計画の完遂に向けて努力されることをお願い致します。

それにはまず、継続的な改善や計画を達成するために体系化されたプロセスであるPDCAのツールを使用することです。計画実施・運用 点検・是正 見直しのサイクルを回すことです。本年度はこのツールを活用

して計画を達成するよう各支部長及び各委員長をお願いをしておきます。

KECAニュース No.40で宣言したKECA設立15周年記念事業へ向けての取り組みは

優先順位が低いと考え一先ず保留と致しました。2010年度はKECA設立15周年記念イベントを盛大に行えるように2013年に向けて活動したいと思います。

KECA 会員の総力を結集した環境教育の実現を目指す

～ イベントと研修会を通じた人脈とネットワークづくり～

副理事長(事務局 会員担当) 河野健三

1. KECA 会員担当として考えたこと

事務局の会員担当として3年が経過しました。その間、多数の会員の方々と知り合いになり多くのことを学びました。そこで実感したのは KECA 会員の皆様はいかに豊富な経験と知識を持っておられるのかということです。

市民部門・事業者部門を問わず、これら会員皆様の力を結集すれば、KECA でなければ出来ない、特長のある活動が実現できると考えるので2010年度をスタートの年と位置付け、その進め方について述べます。

2. 環境教育は KECA の活動のもう一つの軸

私は KECA の活動の軸は二つに集約されると考えています。

一つは KECA の財政基盤の基となっている EA21 をはじめとする環境マネジメントシステム(EMS)であり、これは主に事業者部門の会員同志を結びつける軸となっています。

もう一つの軸は環境教育であると考えます。

環境教育というと市民部門の会員が行うものとの認識があるように思いますが、私としては環境マネジメントシステムの構築・定着も環境教育の一環と考えるので、実現したい環境教育は市民部門・事業者部門を問わない全会員が参加する環境教育を目指したい

と思います。

環境教育の重要性については2007年末に行われた会員アンケートでも指摘され、環境教育委員会、市民活動研究会を中心にいろいろな取組みが行われています。

ここでは昨年9月に実施したバリアフリーフェアを振り返り、2010年度のイベント・研修会を通じて「KECAとして特長のある環境教育の実現」を目指す取組について考えてみます。

3. KECA として特長のある環境教育の実現を目指す取組

1)有志会員の活動内容をまとめた展示パネルの制作

有志会員の活動実績を顕在化し、KECA 内で周知すると共に対外的に PR するために展示パネルを制作する。

パネルは KECA の財産としてイベント等で活用させてもらう。

2)人脈とネットワークづくり

今までに制作された展示パネルと共にこれから制作する展示パネルを活用し、イベント・研修会を通じて対外的にも発表すると共に、会員には各パネルの活動内容をベースとして仲間づくりに努めてもらい、情報交換・助け合いができるようにする。

3) KECA として特長のある環境教育の検討
総合研修会 ・ を通じて「KECA として
特長のある環境教育」とはどのようなもの
のかについて、出来るだけ多くの会員に参
加してもらい検討する。

4. 昨年 9 月に実施したバリアフリーフェ アでの取組

バリアフリーフェアは KECA の事務所があ
る横浜ワールドポータズ(YWP)で長年行われ
てきたビッグイベントです。

NPO スクエアの一員である KECA としては、
KECA 展示ブースにサロンを設け、KECA の PR
と共に会員同志の交流会を行いました。



バリアフリーフェア参加の面々

展示パネルは市民活動をされている4名の
会員に生物多様性をテーマとして原稿の作
成をお願いし、事務局で製作しました。



市民活動フェアで参会者と一緒に

・川崎支部：大中睦夫さん・・・いろいろな生
命が生きられる地球をとりもどそう

・横三支部：高橋弘二さん・・・生き物たち
にとって住みよい三浦半島を目指して

・県央支部：小林敏興さん・・・チョウから
環境問題を！！

・湘南支部：嶋田和夫さん・・・ちゅら海と
サンゴ礁の生き物たち



講演をする早野さん

又、中央ホールでは西湘支部：早野木の実さ
さんから KECA の紹介とご自身の活動内容につ
いて講演してもらいました。

バリアフリーフェアの詳細は添付資料を
ご参照下さい。

ここで制作した展示パネルは先日行われた
市民環境活動報告会、市民活動フェアのイベ
ントで活用しています。



クモガイ

5. イベント及び研修会の2009年度の実績と2010年度の予定

2009年度	名称	概略内容	対象	2010年度 予定
9月12,13日	バリアフリーフェア	講演、パネル展示と交流会	会員と市民	10月2,3日
10月2日	総合研修会	環境教育をテーマとした研修	会員	未定
12月5,6日	総合研修会	会員相互の親睦と研修(一泊)	会員	未定
2月27日	市民環境活動報告会 (*)	基調講演と口頭発表、ポスター セッション、交流会	会員と市民	3月5日
3月13,14日	市民活動フェア	市民団体の交流と協働	会員と市民	3月12,13日

(*): 環境教育委員会担当

6. 今後の進め方

2010年度からは企画委員会は企画担当として事務局に入り、2月に開催される市民環境活動報告会(環境教育委員会担当)を除く二つのイベントと二つの研修会については事務局が担当する事になります。

3. で述べたとおり「KECAとして特長のある環境教育の実現を目指す取組」は次のス

テップで進めたいと思いますのでご支援・ご協力の程宜しくお願いします。

- 1) 有志会員の活動内容をまとめた展示パネルの制作
- 2) イベントと研修会を通じた人脈とネットワークづくり
- 3) 総合研修会 ・ を通じた「KECAとしての特長のある環境教育」の検討

バリアフリーフェア 2009 への参加報告

河野健三

YWP NPO スクエアの一員として、頭書フェアに参加したのでその結果について報告する。

1. 参加目的及びその実績と評価

参加目的は KECA の PR と会員への交流の場の提供にあった。

- ・ KECA の PR については、西湘支部：早野木の美さんの講演及び生物多様性に関する会員諸氏の活動状況をまとめたパネル展示とパンフレットの配布によりほぼ初期の目標は達成された。
- ・ 会員への交流の場の提供について、理事以外の会員参加は9名に留まり、理事を中心とした交流会となったが、コーヒー・クッ

キーのサービスも出来て、それなりの成果は得られた。バリアフリーフェアは来年以降も継続されるので、一般会員の参加を増やすような取組を進めていきたい。

2. KECA の PR 用資料の内容

- 1) 西湘支部：早野木の美さんの講演内容
 - ・ 題目：低炭素社会の実現と生物多様性の保全を目指して
 - ・ 内容：KECA の支部活動、委員会活動を中心に市民、事業者、行政の間のパートナーシップづくりに加え、楽しいエコとロハスな

街づくりを目指したコミュニケーションの場作りに奔走した様子の紹介。(PPTは事務所のPCに保管されている)

2)パネル展示：市民活動を実践されている4名の方にパネルの製作をお願いし、展示と説明を行った。

	展示パネルのテーマ	内容・キーワード	作成者
1	いろんな生命が生きられる地球をとりもどそう『生物多様性の保全をめざして』	生物多様性と人間とのかかわり及び来年10月のCOP10について	大中さん・河野(川崎支部・横浜支部)
2	生き物たちにとって住みよい三浦半島を目指して	自然観察・環境学習、保全・再生活動の実践について	高橋弘二さん(横三支部)
3	チョウから環境問題を!!	チョウは自然の変化を知るための「ものさし」	小林敏興さん(県央支部)
4	沖縄のちゅら海とサンゴ礁の生き物たち	いろんな生き物・みんな違ってみんないい	嶋田和夫さん(湘南支部)

3. KECA ブースへの一般来場者及び会員参加状況

	一般来場者		一般来場者 合計	会員 (内一般会員)	参加人数 合計
	大人	子供			
9月12日	5	6	11	18(6)	29
9月13日	16	9	25	12(3)	37
合計	21	15	36	30(9)	66

注)本人数は河野が確認した人数であり、KECA 業務打合せ又講演の時等席を外した際の人数は含まない

4. KECA 会員の参加メンバー(敬称略)

9月12日(18名):石黒不二夫、岩村順雄、大中睦夫、小林敏興、木村隆男、斉藤雅彦、嶋田和夫、高橋弘二、高橋信、中野成蹊、早野木の美、樋口藤太郎、古川輝夫、松永研一郎、村井哲郎、杉浦理事長、木村事務局長、河野健三

9月13日(12名):大田圭一、大竹順之、大中睦夫、岸川浩一郎、小林敏興、嶋田和夫、杉本幸信、原洋夫、水谷和秋、杉浦理事長ご夫妻、木村事務局長、河野健三以上

支部活動報告

<支部活動事業総括>

担当理事 古川 輝夫

地域の環境保全活動を主体に支部活動事業が行われているが、特に、各地域では環境展への出展、自然保護教育活動など地元行政や市民に対して環境保全活動を根付かせている積極的な支部も見られた。

一方では、各支部間においては事業内容や

その運用実施状況では、支部の力量に大きな格差が生じているのが現状である。

この要因として会員数、支部範囲、企画運営方法など諸問題もあり、今までも検討課題として取上げられているが、今後は根本的な是正処置が必要かと思われる。

原点に立ち返って、内向きな活動のみでは無く地元市民、行政、商工会などに対して環境カウンセラーが信頼され役に立つ支部事

業活動に心がけることが反省として上げられる。

横須賀三浦支部

支部長 高橋 弘二

1. 支部集会

偶数月第4木曜日、横須賀市民活動センターで開催、3、4名の会員が参加しています(会員8名)。内容は以下の通り。

支部長から理事会や KECA の委員会、支部活動等の現状の報告

支部として取り組んでいる事業はないので、それぞれの市町の環境行政、環境関係イベント、市民環境活動等についての報告、情報提供

2. 活動報告

2月25日(木)18時に開催した支部集会で次のような活動報告がありました。

(1)“すかっ子セミナー2009”は12月で活動は終了、2010年度5月スタートに向けて計画

(2)高橋支部長が代表の『横須賀「水と環境」研究会』が、1月30日“こども環境フォーラム”で横須賀市 ECO 大賞地域活動部門賞の表彰を受けた。同フォーラムで、同研究会他が指導する「すかっ子セミナー-自然系コース“海っ子・山っ子・もういっこ”」が活動発表を行った。

(3)21年度、横須賀市内の小学校で環境学習授業(野外を含む)を15回実施。

(4)改修された万葉公園奥に育てたトウヨウサシヨウウオを放したので、その後の観察を続けていきたい。

(5)葉山町では“ごみゼロ”を目指して、モデル地区を決め「生ごみのコンポスト実験中」、掻き回す手間がかかるが順調。

3. 支部集会後の活動

(1)3月5日 KECA 横須賀理事会開催に協力(遠田、青鹿、武藤)

・理事会(10~13時):会場案内、運営サポート、オブザーバー出席

・市内・猿島散策(13~16時):サポート

(2)2月27日(土)午後、県民活動センター2階ホールで第16回市民環境活動報告会に横三支部として「三浦半島の生き物たち」のポスターを展示し、来場者に説明・交流した。

(3)3月6日(土)午後、ヴェルクよこすか6階ホールで“三浦半島まるごと博物館連絡会フォーラム”が開催され、会場の準備、一部司会を担当した(当支部も構成団体登録)。

3月横須賀理事会を担当して

横須賀三浦支部長 高橋 弘二

た後、夕方から懇親会を行っています。横須賀は少し遠いこともあり、前回の理事会で「昼間開催、懇親会の代わりに昼食会」の了解を得て開催しました。

1. 集合

集合はJR横須賀駅と京急汐入駅とし、横

KECAの理事会は、年に2回、各支部持ち回りで開催することになっており、3月5日(金)の理事会を横須賀三浦支部で担当し、横須賀で開催しました。これまでは午後から開催し、理事会の前後に施設見学などを行っ

三支部会員が出迎え、会場へ案内した。JR横須賀駅 集合組は、海を隔てて米軍基地が見えるヴェルニー公園をミニ散歩して会場へ向かった。

2. 理事会

5月の総会に提案する事業報告、事業計画の審議など重要案件があるため、10時から13時まで汐入駅に近い産業交流プラザ交流サロンを借りて開催した。横三支部会員はワザバ参加

3. 昼食は”横須賀名物・海軍カレー

12時過ぎ、委員会・支部活動報告を一時中断して昼食、折角横須賀にきてもらったのだから、横須賀名物”海軍カレー”を出前してもらった。味は好評のようだった。

4. どぶ板通りを歩いて三笠公園へ

活動報告は時間切れ、12時50分、会場を後に、有名な「どぶ板通り」を歩いて米軍基地入口前に出て、三笠公園へ。戦艦三笠をバックに東郷元帥像の前で記念写真を撮る。

5. 東京湾唯一の自然島・猿島へ

13時30分発、甲板で潮風を受けながら目の前に見える猿島へ渡る。自然の中に日本海軍の近代遺産が残る無人島・猿島を、



戦艦三笠をバックに東郷元帥像の前で

横須賀市認定ガイドの請地、小濱さんから案内してもらおう。

黒船が江戸幕府の命を無視して東京湾を測量し、猿島を”ペリーアイランド”と名づけたとか。特別にレンガ積みの要塞・弾薬庫内も案内してもらおう。お天気に恵まれて暖かく、砲台跡、展望広場から東京湾を往来する船を眺めながら、終戦間近に空襲を受けた話や日蓮上人伝説など、話は尽きず1便遅らせて、ゆっくり緑ゆたかな島内を一周して15時45分の船で戻った。

6. 有志は戦艦三笠記念館へ

ちょっと遅くなったが、折角来たのだからと、数名の方が戦艦三笠記念館に入館された。岸壁に固定された戦艦三笠記念館は、戦艦そのものが日露戦争の遺物であり、艦内ではNHKドラマ「坂の上の雲」で注目を浴びて、「特別展・秋山真之と正岡子規」も観ることができた。

3月5日に横須賀で開催した理事会・猿島散策は、以上のようなのですが如何でしたでしょうか。



猿島・展望広場でガイドの説明を聞く

横浜支部活動報告

支部長 原 洋夫

2009年度第3及び第4四半期における横浜支部の活動を報告すると共に今年度の活動を振り返ってみたいと思います。

1. 支部会議の開催

10月22日(横浜市市民活動支援センター、出席者21名)、11月26日(同、13名)、12月16日(同、14名)、1月28日(同、16名)、2月25日(同、16名)、3月26日(同、15名)の6回開催した。主要議題は理事会・委員会等の報告、横浜支部事業活動の進捗、横浜支部事業計画、イベント参加計画、連絡事項、1分間スピーチ等である。

2. 2009年度支部事業活動進捗状況

2.1 (EMS普及活動) EA21グループ
(村井哲郎グループ長他 16名)

エコアクション21(以下EA21という)顧客開拓のため、横浜機械工業団地協同組合、横浜化学工業団地、横浜金属団地協同組合にアプローチを試みた。前二者についてはEA21の説明会を持つことができ、導入意志のある企業に対して引き続きフォローする。又、横浜商工会議所の経営セミナー(国内クレジット制度)に合わせ、EA21についても説明(1h)の機会をもつことができ、当グループより講師(竹田氏)を派遣した。更に、協同組合横浜マーチャンダイジングセンター(MDC)に対してEA21認証取得支援(集合指導)のための説明会を実施した。ただ本件は、その後の不況もあり、MDC側の意向で一時取り止め、時期が来ればまた考慮しようということで合意している。その後も潜在的顧客になり得る事業者様に個別に接触を続けている。また来年度は、エコアクション21の基礎的な勉強会を検討している

2.2 「横浜市中小企業ISO14001認証取得支援事業」運営(木村、野々村、原)

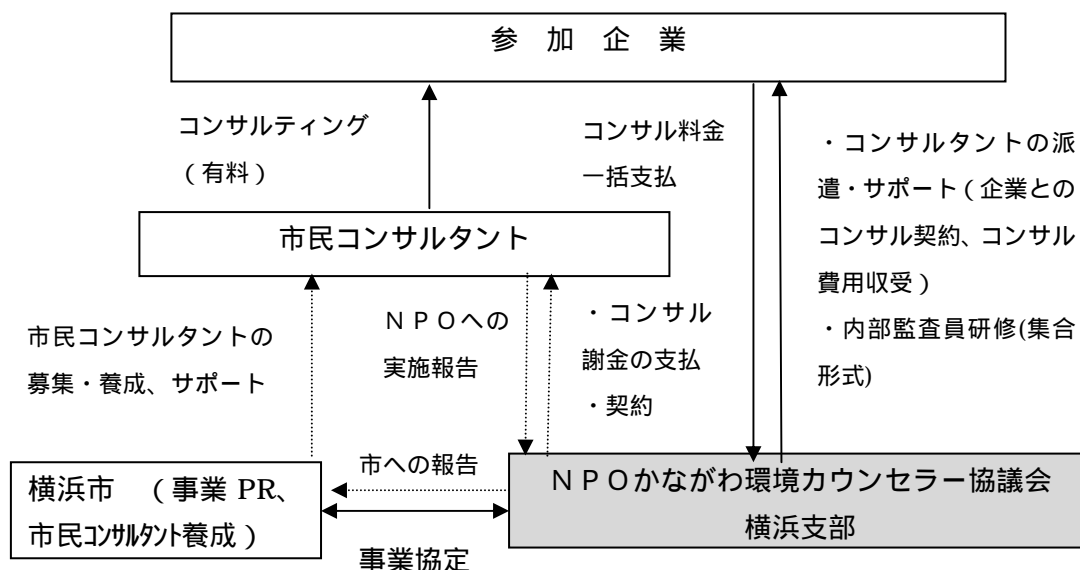
これまで横浜支部は横浜市温暖化対策推進本部と協働で市内中小企業に対するISO14001認証登録支援事業を行ってきた。業務としては事業者・市民コンソリタのコンサル進捗の管理及び横浜市への報告業務及び既に横浜市支援により認証取得された事業者社員への内部監査員養成研修会の講師派遣等で協力してきた。今年度から別図のような新事業スキームの中で市と協働して企業の認証登録に参加することになった。これまでにKECAと横浜市の協定書作成し調印した。現在1社が応募してきており、市民コンサルタントも決まったのでKECAと事業者、市民コンソリタとの契約を取り交わしコンサルが始まった段階である。応募締め切りは3月末までだが事業者へのケアは契約後1年間行うことになっている。

一方、内部監査員養成研修会を3月13日(土)市庁会議室で開催し、上記3名講師で開催した。参加受講者は4名であった。

2.3. FM戸塚番組出演(姫井浩明、筆者、齋藤雅彦)

FM戸塚は戸塚区周辺に放送している地域放送局である。当協議会に地球温暖化とその対策に関する話の依頼があり、当支部で対応したものである。KECAのホームページを見て連絡を頂いたとのことで会った。放送は9月、10月、11月の第1水曜日のお昼の番組「totsuka heartfelt kichen」で毎回10分の対話式でおこなった。9月は姫井氏で地球温暖化と省エネの話、10月は筆者が二酸化炭素排出量と暖房の話、11月は齋藤雅彦氏で二酸化炭素排出量と一般ごみの話をした。

事業スキーム図



3. 2009年度の支部活動を振り返って
 先ず会員の訃報をお伝えします。当協議会の初代理事長の志賀正良氏は12月に、長らく事務局長を務められた小竹重一氏は8月に他界された。KECA発展に大いなる貢献されたお二人を失い誠に残念です。これまでのご指導に対し心から感謝しご冥福をお祈りします。

支部会員数は期首4月時点51名であったが現時点では53名で4名の新人が入会された。

定例支部会議は原則毎月第4木曜日で桜木町の横浜市市民活動支援センターで開催している。参加者は平均16名/回で12名~21名の範囲であった。したがって会員の1/3程度の出席率である。魅力的活動が不足していることの表れと思うが対策は難しいのが現状である。議題はKECA理事会活動の連絡や支部活動の計画立案とフォローが主体である。全員が発言するよう1分間スピー

チもたまにやっているが、連絡業務より支部活動の推進に時間を割きたいものである。

支部活動における主要テーマの一つは、言うまでもなくEA21の顧客開拓(EA21G担当)である。前述のように関係団体への働きかけはしているが活動成果は1社とさみしい。簡単ではないが関係者の地道な努力を継続していく必要あり

横浜市中小企業ISO14001認証取得支援事業は今年度までの3年間の時限事業であり、来年度は継続するかは現時点未定である。しかし新スキームで既に認証取得事業者への支援は来年度認証登録取得までは実施することになる。

市民活動であるが、6月の横浜市環境月間での行事や前述のFM戸塚への出演など一過性の活動のみだった。会員同士で共有できる継続的テーマを模索してきたが今年度は見つからなかった。次年度への課題である。

2009年度川崎支部活動報告

支部長 照沼 俊夫

支部会合は、毎月開かれていて、年間事業計画に基づき、支部員各位が求める役割分担に従って、実施作業の評価、その後の進め方等を討議した。

1. 支部会合は、毎月行なうことにしているが、後半に息切れがした。
2. EA21の啓蒙・普及推進事業については、過去の接触企業のフォローを精力的に行うも、掘り起こしは簡単ではない。
3. 環境教育事業の推進については、出前授業について環境教育委員会の方針に従い、支部員が積極的に推進し実績が増えている。

地域の活動団体と共催している公式の野鳥観察会は、参加者が企画運営担当1名、講師1名となったため安全監視

・誘導に戦力不足と判断し中止した。しかし支部長が単独で非公式に川崎市の『ふるさと記念公園』で画眉鳥観察会を実施した。一般参加者は、画眉鳥と言う名前そのものを知らないの
で好評だった。

地域の活動団体に協賛している植樹祭は今年も実施した。KECAとしては例年苗木の提供を行なっているが、は間に合っているということだったので僅かな雑貨提供と労務提供に留めた。

4. リスクコミュニケーション、省エネに関する事業は、支部員がその思いをそれぞれの委員会活動の中で実現に向け活動した。
5. 以下に植樹祭の写真を示す。



土



奮戦



卯の花の芽吹き(昨年植樹)



苗木



奮戦



実生育成山桜

湘南支部報告

支部長 嶋田和夫

1. 定例的な会議：

毎月最終金曜日の午後6時から「藤沢市民活動支援センター」で開催、各会員の活動と支部活動について意見を交わしている。

1月29日、6名参加、

2月26日、7名参加

3月26日、5名参加

2. 最近の活動

2月27日、第16回市民環境活動報告会のポスターセッションに湘南支部として参加した。

3月13, 14日に開催された市民活動フェア2010に参加した。

3月13日に行われた茅ヶ崎市環境市民講座2009-9の企画に携わり講演も行った。

4月3, 4日に行われた相模原市民桜まつりに協賛した相模原支部の行う環境イベントに参加した。

3. 会員の動静。

湘南支部で活躍が期待されていた新入会員の小林 隆さんは、請われて現役に復帰し、中国に長期出張することになって当分休会することになった。また3月末で1名退会されたので現状の会員数は21名となっている。

4. 活動予定

支部活動の柱の一つである「ふじさわ環境フェア2010」は6月27, 28日、ちがさき環境フェアは7月3, 4日に開催される。例年通り両フェアに参加して全員で支援することになった。

茅ヶ崎市環境市民講座2009

『省エネ講座～家庭でできる省エネ：食から考える地球温暖化対策～』
について

湘南支部 小山 稔

2010年3月13日(土)の午後、表題の環境市民講座が茅ヶ崎市役所本庁舎7階大会議室で開催された。講座の内容は、第1部は「茅ヶ崎市地球温暖化対策地域推進計画」の解説、第2部はクイズ形式による「食から考える地球温暖化対策」という市民向けの学習会である。たまたま主催者の一員である私が講座の講師とワークショップの進行役を担当することになった。以下に、その概要を報告する。

第1部では、図-1に示すようなスライドで、地球環境問題(様々な地球温暖化の影響や生物多様性の喪失など)と私たちの人為活動との関係について解説した後、茅ヶ崎市地球温暖化対策地域推進計画が策定された背景や目的および概要について図表スライドで解



説した。

茅ヶ崎市は市民・事業者による地球温暖化対策を推進するため、2009年3月に茅ヶ崎市地球温暖化対策地域推進計画を策定し、具体的な活動をはじめている。

この計画は、我が国の地球温暖化対策長期目標や京都議定書目標の達成に向けて、自治体として寄与することを目的とするものである。

当面の目標は、2012年度(平成24年)の温室効果ガス排出量を2004年度(平成16年)比で10%削減するというものであり、計画には、市民、事業者、行政毎に削減の目安やそのための施策や活動を段階的に推進していく方法例(図-2は市民部門)が提示され、実効性を高めたいというねらいがこめられている。

第2部では、地球温暖化対策地域推進計画概要版の具体的な対策による二酸化炭素の排出削減量の比較と

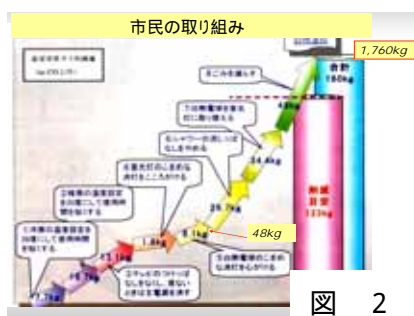


図 2

の比較と(財)省エネルギーセンター発行のパンフレット「上手にいただきます(食の省エネbook)」にある

食物の生産から廃棄にいたるまでのステップ毎の消費エネルギーについて、参加者がグループに分かれ、クイズ形

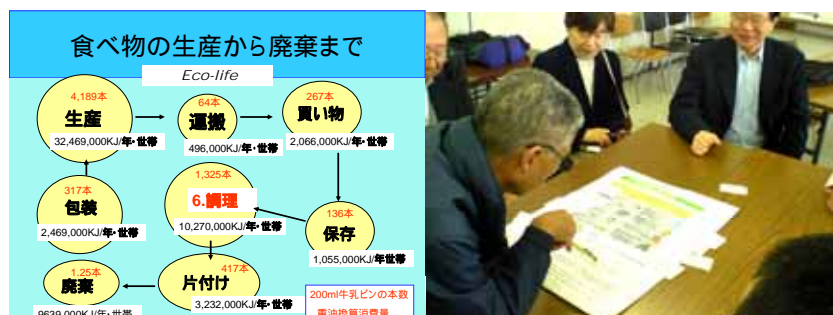


図 3

県央支部活動報告

支部長 古川 輝夫

本年度の県央支部活動をより活性化することを、2009年度計画で支部会員の賛同を得て、順調に計画通り活動を推進しています。当支部地域の中心に位置する「えびな市民活動サポートセンター」で毎月1回に開催されていきました会議を隔月として、その他の月にはできるだけフィールド活動に参画することで、会員・家族・一般者の相互交流の場を

式で考えてみるというワークショップを行った。グループで少し回答にばらつきがみられたが、身近な問題でもあり、参加者は主婦、年配者、老若男女を問わず非常に活発な意見が飛び交い、回答と簡単な解説を聞いた後、正解できず悔しがるグループや、にわか作りのクイズ問題の不備について、なかには出題がおかしいという人もいたが、結構なごやかな楽しい学習会となった。(図-3)

アンケートの自由記述には、温暖化についての基礎知識の再確認、楽しいワークショップと普段の生活に役立つ講座でよかったなどの感想が寄せられていた。

参加者からのメッセージを読みながら、このような市民に身近に感じられ、役立つと思ってもらえるような学習会活動を続けて行くことが、今後も環境カウンセラーとしての大切な役割のひとつではないかと改めて思った。



広げ、より多くの人に環境問題に対する普及啓発の機会を与えるよう方向転換をしてきており、かなり良い成果を上げております。定期会議及びフィールド活動については年度計画に基づき、会員各位・家族・一般者の相互交流と環境問題に対する普及啓発活動について以下の通り報告致します。

なお、報告者は事業担当責任者です。

(財)相模原市都市整備公社の環境セミナー報告
「駐輪場の管理をしているが、エコアクション21では何をしていますか？」

県央支部 守谷喜芳

昨年12月に、(財)相模原市都市整備公社の環境活動リーダーの方達を対象に環境セミナーを実施しました。セミナーを依頼された経過は、EA21の活動範囲を本社事務所から公社全体に広げるにあたって、各職場の環境活動リーダーに環境教育を実施して欲しいということです。事務局担当者が、駐輪場の管理をしている職場に行き EA21の活動リーダーの依頼をしたら、「私たちの職場では、電気も水も使用していません。ゴミもでないのですが、どんな活動をすれば良いのですか。」と質問をされて困ってしまったということです。他に駐車場、公園、プールや会館等の管理を担当していますので、皆さんに分かりやすい内容のセミナーにして欲しいと依頼されました。

私も悩みましたが、皆さんに活動のヒントを話して、参加者に考えてもらうセミナーに

しました。「市民の方達が、環境に良い行動ができるように間接的に支援することもエコアクション21では重要です。例えば、駐輪場の管理をうまくやれば、自動車に乗らなくて済み環境良いことになるのです。」という説明をしました。駐輪場を管理している方から質問があり、「私はアイドリングストップをします。」と話されたので、「それはお客様が実施することです。あなたが何をしていますか。」と質問をしたら、「ポスターを貼って、アイドリングストップのキャンペーンをやります。」と話してくれました。その他、公園で植木を大切に管理しますとか、会館の管理担当者は環境教育のセミナーを開きますと、それぞれの自分の職場でなければいけないことを自主的に話してくれました。環境啓発セミナーとして成功したのかなーと感じたひと時でした。

以上

「清水建設技術研究所」見学と意見交換会の実施報告

県央支部 原田勝征

清水建設は地球社会への貢献や人間尊重を企業理念としており、免震建物など本業の開発に加えて、「低炭素化社会」の実現を目指した長寿命建築をはじめ、緑豊かな町づくり、循環型社会、自然環境の保護などに資する技術開発を行っています。県央支部ではこれらの技術開発の中心となっている技術研究所を3月4日、6名で見学し、CO₂削減やビオドープなどについて意見交換を行いました。以下に興味を引いた取り組みを中心に報告します。

(1) マイクログリッド実証施設：マイクログリッドとは太陽光発電等の自然エネルギーを含む複数の発電・蓄電設備をネットワーク化して電力需要に合わせて最適制御し、需給バランスを調整して安定的に電力を供給するシステムです。既存の電力系統との協調を図りながら、CO₂排出量削減に寄与できます。出力600kW(標準家庭で約200世帯分)の電力需要が賄える実証プラントを見学しました。各種エネルギーをCO₂排出量が少なくなるよう供給する制御技術及

び周波数同期制御技術がポイントだそうです。

(2)ビオトープ: 技術研究所の敷地中央に、約2千m²のビオトープを作り、自然生態系、資源及び生活環境の再生などを実証しています。100種を超える昆虫、20種類近い野鳥の飛来が確認されています。また、屋上ビオトープ「万葉の里」は、厚み50cm程度の土に種々の植物を植え、池にはメダカを泳がせています。周囲気温の低下に確実な効果があるそうです。



屋上ビオトープ、「万葉の里」

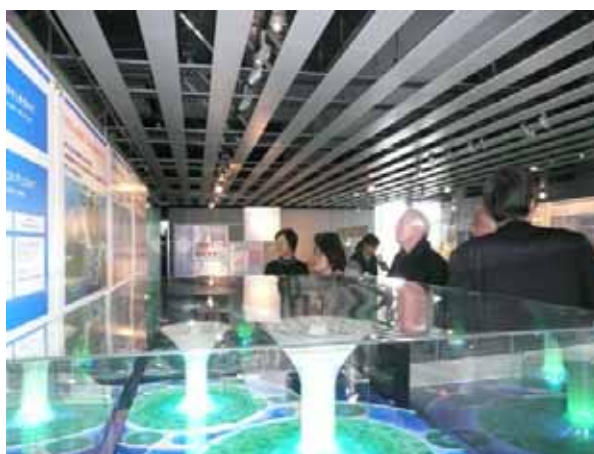
(3) 全面床吹き出し空調: 床から冷暖房空気をゆっくり押し出す方式の空調システム。音が静かで体に優しく、足元の吹き出し口で各人が個別調整可能です。

(4) 昼光利用グラデーションブラインド:

ブラインドの光を受ける角度を変化させ、日射を遮りながら、部屋の奥まで光を届かせる技術。安価で効率的。

(5) 壁面緑化「つる自慢」: 壁と少し離して土と繊維を練り合わせて作成したパネルにツタなどを這わせて緑化する方法。低コストで管理が容易。見た目もきれいです。

意見交換会: 技術研究所本館は、大架構柱頭免震構造の「ケージ状ストラクチャー」を採用したユニークな構造。ここで羽根室長が中心になり意見交換に対応していただきました。チリ大地震の直後でもあり、建物の免震技術に議論が偏った感じがありましたが、幅広い省エネ技術に関する意見交換ができ、予想以上の収穫がありました。清水建設の対応も非常に丁寧で好感が持てました。



いろいろなCO₂削減技術の見学

神奈川県厚木総合防災センター見学記県央支部

菅田 勝

県央会員の防災意識の高揚と、EA21に求められる緊急時の訓練の必要性を体験学習すべく、県央支部の会員8名のメンバーは、筋金入りの『防災レンジャーになろう!』を合言葉に、11月18日(水)午後厚木市内にある“総合防災センター”を見学しました。

体験ツアー開始前のエントランスホー

ルには、“消防用具発達の歴史コーナー”が設置され、江戸時代の手動火消しポンプ(玩具のような、これでは焚火も消えない)から、昭和40年代頃迄に活躍した三輪自動車型消防ポンプ車等が展示され、これからの未体験ツアーのスリルに富んだ(または、スリリングな)雰囲気大いに盛り上げてくれまし

た。

可愛い女性インストラクターに先導され(吸い寄せられるように)参加8名の‘青年’防災レンジャー隊の面々は、震度7の地震体験、風速30メートル強風体験、水消火器を使った初期消火体験、煙の中の安全避難体験、防災シアターでの、神戸大地震の体験者による防災準備の大切さを訴えた映画、県内の地震活断層地図や、防災対策の紹介コーナーなど、約1時間半の体験ツアーを全員脱落すること無く、疑似体験を楽しみました。

地震体験震度7(今回は横ゆれのみ、縦揺れは無しでも)のすごさはやはり想像を絶するもので、『TVや物が飛んでいった』と



神奈川県総合防災センターのホームページへようこそ!

災害に備えるためには、災害について知ること、災害について考えることが大切です。神奈川県総合防災センターには、地震や風水害などの体験ができるコーナーや、いろいろな防災情報の展示があります。楽しみながら体験して、災害について家族や地域で考えてみましょう。

の被害者の言葉が大袈裟ではない規模(ひどさ)だとの実感を得ました。

家具や電気製品類の転倒防止固定が大変重要と納得しました。やはり頭で考えるのとは、大違いでした。

見学通じて得た教訓は、やはり日頃からの『防災意識の高揚、事前準備、そして避難訓練』の3点であると改めて納得しました。

今後のEA21 コンサル指導や審査時における、緊急時の訓練の必要性について説得力ある実践的な指導に県央支部防災レンジャー隊員達は活かしていきたいと思っております。

また、交流会を含めて終了後の反省会でも大いに盛り上がりました。

KECA 会員の皆様全員も、是非見学されますよう、お勧め致します。

■ 地震体験コーナー



ここでは震度7までの地震体験ができます。突然の地震にあわてないためにも、いろいろな注意点を覚えておきましょう。

相模原支部報告

2009年度事業報告書

市民、事業者、行政と協同し地域との共生を図るため以下の活動を行った。

- (1) 市民活動、相模原市の行事に参加した。
- ・相模原市の環境を良くする会、研修会他に参加した。
- ・相模川を愛する会、相模川クリーン作戦他に参加した。

支部長 福田 昭三

- ・相模原市民まつり(桜まつり、環境まつり)に参加した。
- ・カワラ野菊を守る会の年間行事に参加した。
- (2) 研修会の開催
- ・相模原市内のカウンセラーを目指す方を中心に研修会を実施した。
- ・相模原市内の小学生を対象にした学習会を実施した。(三菱総研依頼)

(3) 新規事業として

- ・政令都市(2010年4月1日)にむけての環境基本法の作成に相模原市の環境審議会委員として4名のカウンセラーが作成に参加した。
- ・相模原市で最初のアイドリングストップキャンペーンを実施した。
- ・JR相模原駅で13名(うちカウンセラー5名)で相模原市民に向け巾広いキャンペーンを実施した。
- ・相模原市自然観察会(相模原市立環境情報センター主催)に参加した。

2010年事業計画書

相模原支部は女性3名、男性10名の13名で構成され、20代から70代までの巾広い会員で今年も頑張ります。

市民、事業者、行政との共生を図る事を目

標にし、特に今年は4月1日相模原市は全国で19番目の、それも戦後で誕生した市では最初の政令都市になりました(4月3日市民さくらまつりで加山市長が宣言)。

(1) 市民活動、相模原市の行事に参加する。

- ・相模原市の環境を良くする会や相模川を愛する会、そしてカワラノギキを守る会等の年間行事に今年も参加します。

(2) 研修会の開催

- ・小中生を対象とする環境教育並びにカウンセラーを目指す方向け。
- ・事業者向けEA21関連の研修会等の計画

新政令都市相模原市の新規部署との連携、商工会議所との新しい事業の検討、新しい会員と前向きに実施したく思っています。

西湘支部活動報告

支部長 今泉 奉

1. 定例支部会議

1) 回数 隔月の予定で年6回実施した。

実施日 : 6/27 8/22
10/24 12/19 2/20 4/2

2) 時間 18:00~20:30

3) 出席 4~6名

4) 議事

市民活動研究会のパイロット事業への、協力と参加につき討議。

KECA定款変更について、フリーディスカッションの実施。

EA21のコンサルについては、3件の支部内調整を実施。

総合研修会、への参加を要請

したが、参加者は1名に止まった。

大学での環境カウンセラー関連の、講座内容につき打合せ実施。

4) 場所 平塚市市民活動センター

2 環境考察会への参加

1) 第1回環境考察会は9月25日、大磯丘陵(高麗山~湘南平)で実施された。

西湘支部から3名が参加し、今後主催者となるための、運営方法の学習を行った。

2) 第2回環境考察会は11月5日、「函南原生林・学習の道」で実施された。西湘支部から3名が参加した。

委員会報告

< 委員会活動総括 >

KECA の財政基盤を担う環境管理委員会を中心に、市民活動を研究する新たな組織も加わり、各委員会とも概ね良好な活動が展開さ

事務局担当副理事長 河野健三

れた。

一部委員会では会合が少なく委員間のコミュニケーション不足が懸念される。

環境教育委員会報告

委員長 高橋 弘二

1. 委員会

偶数月第4火曜日、県サポートセンターで開催、4～6名が参加して活動計画、活動報告、環境情報の提供などを行っています。

2. 活動報告

2月23日(火)18時30分から開催した委員会での内容は以下の通りです。

(1) 環境教育委員会のホームページ

- ・ホームページはできましたが、環境教育・環境学習を実施することが目的ですので、今後は支部へ浸透させ活用を考えます。
- ・環境教育の実施例のページを設け充実させます。

(2) 小学校の環境教育実施

- ・1月、2月に秦野東小学校の4年生を対象に“地球温暖化防止”に関する環境学習(風呂敷を使った実習も)を、岡本氏が中心となって会員の協力で実施しました。
(岡本、嶋田、今泉、大野、河野)
- ・21年度横須賀では6校で15回の環境学習(野外を含む)を実施しました。
(会員:高橋、遠田、元会員1名)

(3) 市民環境活動報告会

2月27日(土)開催の第16回市民環境活動報告会の実行委員会に参加、県学習リーダー会をサポートしました。(岡本副実行委

員長、上野、石黒)

2月27日(土)市民環境活動報告会当日の手伝い(役割分担)をいたしました。

(3) 環境教育インストラクター養成講座実施の取り組み

- ・環境教育インストラクター認定機関の一つであるECUと共催する養成セミナー開催に向けて検討を開始しました。
- ・2月25日14時から、杉浦理事長、今泉理事とECU・杉並環境カウンセラー協議会を訪ね、鈴木副理事長から環境教育インストラクター養成講座開催についてヒアリングを行いました。今後の取り組みの参考にいたします。

- ・続いて3月6、7日に杉並環境カウンセラー協議会が同養成セミナーを開催いたしましたので、内容をヒアリングするとともにセミナーに参加して情報を入手いたしました。

3. 2010年度の環境教育委員会の事業計画について

- ・緊縮財政で予算は、昨年比大幅減の見通し
- ・環境教育指導者登録者の更新と人数増
- ・登録者の講習会(スキルアップ)の開催
- ・環境教育インストラクター養成講座の実施
- ・環境カウンセラー受験希望者の指導講座の

開催

- ・市民環境活動報告会の運営を担当
 - ・総合研修会への協力ほか
4. その他
- ・2月25日14時から、杉浦理事長、今泉理

事と ECU・杉並環境カウンセラー協議会を訪ね
鈴木副理事長から、環境教育インストラクター養成
講座開催についてヒアリングを行った。今
後の取り組みの参考にする。

神奈川新聞に紹介された環境学習の成果発表公開授業の記事です

神 奈 川 新 聞

2009年(平成21年)12月5日 土曜日

野比川題材に環境学習

横須賀市立野比小学校(小田部忠仁校長)の特別支援
学級の児童が、学校のそばを流れる野比川を題材に、環
境学習に取り組んだ。何度か現地へ足を運び、さまざ
まな生物がいることを知った子どもたち。4日には教育関
係者らを対象にした公開授業が行われ、これまでの学習
内容を発表。生物がすみやすい環境について考えた。

(岡本 晶子)

野比小の児童10人



公開授業で教壇に立つ高橋さん
＝横須賀市立野比小学校

授業には高橋代表も教壇に立
ち、きれいな川にするため、家
庭でも油などを流さないよう呼
び掛けた。最後にこれまでの感
謝の気持ちを込めて、子どもた
ちから、同校の畑で栽培したサ
サゲで作った赤飯が同代表らメ
ンバーに贈られた。

公開授業で内容発表

同校特別支援学級に在籍する
のは2年生から6年生までの10
人。本年度は「水と自然を大切
に」というテーマの下、横須賀
市立野比小学校で、カリコナやヨシ
ノボリ、サワガニなどの生物が
いる一方、紙、自転車、CDな
ど多くの物がごみとして捨てら
れていくことを発表した。甲斐
克宏教諭から、サワガニがたく
さんすめる環境にするために必
要な物を問われると、「白」「枯
れ葉」「きれいな水」といった
意見が出た。

学習を進めてきた。
公開授業は県小学校理科教育
研究大会横須賀地区大会の一
環。子どもたちは地図やイラスト
などを使用、これまでの野
比川探検で、カリコナやヨシ
ノボリ、サワガニなどの生物が
いる一方、紙、自転車、CDな
ど多くの物がごみとして捨てら
れていくことを発表した。甲斐
克宏教諭から、サワガニがたく
さんすめる環境にするために必
要な物を問われると、「白」「枯
れ葉」「きれいな水」といった
意見が出た。

温暖化防止出前授業 実施報告書

環境教育委員会 岡本 正義

かながわアジェンダ推進センターからの依頼で、家庭で実践できる温暖化防止出前授業について、以下の通り実施いたしましたので報告します。

授業テーマ	私たちの暮らしとごみ ごみと3R
実施日時	平成22年1月15日(金) 10:35~12:00
実施学校・学年	秦野市立東小学校・4年生 合計29名(1名欠席)
実施した講師	岡本 正義、嶋田 和夫、大野 昌美 合計 3名
<p>実施した授業の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. きれいな地球：児童の身の回りや経験から気が付いた、美しい自然や生き物を画像で見る 2. リサイクル発見ゲーム：身の回りにある商品、ノート、チョーク、シャープペンなど10ヶを調べて、リサイクル品はどれか？ 3. ごみの3Rのデモンストレーションとクイズ <ul style="list-style-type: none"> リサイクル：使い終わったペットボトルをどうするか？寸劇をみて考える トレット[®]-パ[®]-、蛍光ペン、作業服は何からリサイクルされたか？ リユース：掃除の仕方の寸劇をみて、リユースを考える リデュース：買い物仕方の寸劇をみて、リデュースを考える 4. 風呂敷包み体験：4種類の包み方を実践する 5. まとめ 	
<p>児童の反応、実施して良かった点、反省点など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童は、積極的に授業に参画し、生き生きとゲームや体験に臨んでいた。 2. 授業の感想発表を聞き、感想文を読む限り、ごみを増やさないできれいな地球を守るとの授業の目標は達成できていた。帰りにお礼の寄せ書きを頂いた。 3. 身近な商品や身の周りの行動の中から、児童の目線で3Rを理解できるプログラムを構成したので、日常生活と密着した授業になったのは良かったと思う。 4. 学校公開日であり、ご家族が3名見学していた。児童と一緒に風呂敷包み体験をして頂いた。教室に一体感のある授業になった。 4. 反省点は、後片付けに少し時間が掛かったので、給食を児童と一緒に取れなかったこと。残念！ 	

授 業 風 景

1. クイズの答えは何か?

3R（リサイクル、リユース、リデュース）の寸劇を見て、環境に優しいやり方は何か？
児童は2人で1組になってクイズの答えをホワイトボードに書きます。
上にあげて答えを示します。



2. 先生もご家族も一緒に勉強

学校通信に授業風景を紹介するというので先生も何枚か写真を撮りました。
学校公開日であり、ご家族も見学をしています。
風呂敷包みでは児童と一緒に包み方を勉強しました。



3. 風呂敷包みを体験しましょう

教科書包み、バナナ包み、お買い物包みとリュックサック作りの4種類の包み方を体験しました。
風呂敷をまず、このように机の上を広げてください。
2人で協力してリュックサックも作りました。
難しかったけれど、とってもびっくり、素敵なリュックサックができました。



化学物質委員会活動報告

委員長 木村隆男

2009年度は化学物質のリスクに関する市民と事業者の対話と理解を促進することを目的とした『環境ダイアログ』（リスクコミュニケーション）とWebによる情報発信を活動計画としました。後者はPRTRデータの解析など、当初

計画通り実施しましたが、活動のメインである『環境ダイアログ』は実施することができませんでした。また、当初計画にはなかったことですが、委員の中山育美さんがエコケミストリー研究会誌に“中小企業と地域のリスクコミュニケ

ーション促進のための PRTR データ活用”と題した論文を寄稿し、委員会の活動を紹介しました。

委員会の現状を考えると二つの課題があります。ひとつはわれわれの活動が KECA 内に広がりを持たないこと、もうひとつは活動が地域に十分には定着していないことです。そのいっぽうで、市民団体・NGO あるいは行政などに対しては、われわれの継続的な活動は認知されていると言えるでしょう。

2010 年度の活動計画は基本的には前年度同様ですが、環境ダイアログを実施するためにはこれに参加する事業者を見つける必要があります。社会がリスク

コミュニケーションの方向に動いていることは確かなことですが、事業者の多くはまだ様子見という状況です。現状ではわれわれの力だけで参加事業者を見つけるのは簡単ではなく、今後、行政の力を借りるなどの対策を講じる予定にしています。また、国や県から公表される PRTR データをもとに地域(市町村)ごとの環境リスクを考察するなどきめ細かな解析を行い、会員の皆さんにも関心を持ってもらう活動にしていくことを考えています。

委員会ではつねに委員を募集しています。化学物質の諸問題に関心のある会員の参加をお待ちしています。

環境管理委員会の活動状況報告

環境管理委員長 照沼 俊夫

2009 年度末の環境管理委員は 35 名です。大所帯です。多過ぎると言う批判もあります。謂われなき誹謗中傷もありますが、全員が『E A 2 1 の屋台骨を支えている。KECA の財政的屋台骨を支える。』と言う意気に燃え、無理、難題、奇問、誹謗中傷に臆することなく澁刺と頑張っています。今年は大変過密なスケジュールでしたが、『EMS に取り組みたいという事業者のお手伝いをすること』に意気を感じ、楽しみを見出して走り通しました。コンサルタント冥利というものです。

さて、順不同ですが 2009 年度の報告をします。

E A 2 1 の構築支援については、毎月セミナーを開き、また無料相談にも対応し、お客さんを獲得して KECA の活動資金を賄っています。前半は順調でしたが、残念ながら後半に伸びが落ちました。予算(1

5 社)を僅かにクリアできませんでした(実績 12 社)。その要因ははっきりして止むを得ないと思っています。一方喜ばしいことは不発続きだった生産性本部のセミナー参加企業から指導申し込みを頂いたことです。また工業団地へ営業をしましたが、残念ながら最後に実りませんでした。

今後とも継続することが重要と考えています。

自治体・グリーン化企業支援については、自治体イニシアティブが 2 本、グリーン化プログラムが 3 本同時に走りました。話の出た当初、一部には一方的に出てくるスケジュールもあって、調整が難しく、最悪の場合は講師と二名で突破しよう覚悟を決めてかかりました。幸い「指導者は皆勤のこと」と言う厳しい条件にも拘らず、多くの委員のご協力を頂き、感謝していま

す。講師・指導員は延べ43名でした。委員の皆さんには大変ご苦勞をおかけしました。説明会の参加企業数は、当初見込みの五割り増して200社超でした。上期末で残っている参加企業110社でしたが、これが90社になりました。これからも変動することは、想定していましたが、指導会も終わりましたので、後はより沢山の企業が、息切れせずに審査申し込み、認証登録に辿り着けることを願うのみです。なお、この活動でもKECAの活動資金を賄っていることを付言しておきます。

E A 2 1のガイドライン改訂版(2009年版)が公表され、研修グループが鋭意その理解のための研究会を開いております。審査人にとって意義深い研究会に

なりました。

また、審査人の技量向上のために、E A 2 1地域事務局と共催で、省エネについて有意義

な研修会を研修グループが開いてくれました。

常に審査人、コンサルタントの技量磨きをしなければいけないと考えています。

E A 2 1の教材については、E A 2 1のガイドライン改訂もあり問題の整理と新しい課題への取組みについて毎月検討しています。

E A 2 1の構築支援において効果的な重要なツールであり、教材の仕上がりを期待されます。

エネルギー委員会報告

委員長 西村 堅一郎

エネルギー委員会は12名で構成し、毎月第3金曜日に県民センターにおいて、地球温暖化防止のための「省エネルギーの推進、新エネルギーの導入」について話し合いを行なっている。

2009年度事業計画

2009年度は 国内クレジット制度による中小企業を対象とした省エネ診断の実施
省エネコンサルティングの実施 E A 2 1 審査人を対象に改正省エネ法及び省エネ技術講座を開催 市民を対象に省エネ、新エネに関する講習会を実施するよう計画した。

2009年度事業実施結果

2008年度の国内クレジット制度(国内排出削減量認証制度)に基づく、神奈川県中小企業団体中央会からの省エネ診断実施依頼に対し、5月に7社実施した。しかし、2009年度は温室効果ガス排出削減事

業計画の作成支援の要請がなかった。これは、年間50t以上の二酸化炭素ガス削減事業計画作成が条件となっていたためである。

省エネコンサルタントの受注はなかった。省エネ法の改正などに伴う受注を考えたが、中小企業は無料の省エネ診断でも、時間が取られるため、やりたくないとの意識があり、受注は難しい状況であった。しかし、年度末になって横浜市地球温暖化対策推進協議会「省エネ駆け込み寺」から打診があり、E A 2 1 審査人にクライアントの紹介依頼を呼びかけ、1社省エネ診断を行った。行政の援助で実施するのが良いと考える。

審査人に対し、環境管理委員会が主催した研修会に講師として参加した。省エネルギーセンターの省エネマネジメントと省エネ法の改正について講演会を行った。

市民に対しては、行政主催の茅ヶ崎市環境フェア、鎌倉市民市民フェアに参加し、講演

した。その他、各委員が個人的に市民活動に参加している。

2010年度事業計画

2010年度においても月1回の会合を持つと同時にメール、パソコン通信(スカイプ)等で連絡を密にし、情報を共有する。2010年度の事業計画は次のとおりである。

行政制度を利用した省エネ支援受託

国内クレジット制度、経産省、環境省、地方自治体等の支援制度を利用して、省エネ診断、温暖化ガス排出量削減計画作成支援を実施する。

事業者へのセミナー実施

2009年度に審査人に行ったような、省エネセミナーを、EA21取得事業者を対象として実施する。また、同時に相談会も実施する。この中で、上記行政の支援を受けることができる事業者を探して行く。

販売業者等と連携した新規事業の検討を行う

エスコ事業者、省エネ機器販売会社、エネルギー供給会社など省エネ、新エネに関係した会社と連携して、省エネ診断などを実施していく。具体的な方策については、委員会で検討する。

省エネ、新エネに関する市民への講演会を実施

昨年度同様に、行政等に応募し、講演会を実施する。各地で開催される省エネイベントに積極的に参加する。

温暖化防止パネルを作りました。

市民活動フェアに展示した全国地球温暖化防止活動推進センター(JCCCA)の地球温暖化パネル、その他各種省エネパネルがあります。また、講演用のパワーポイントも御座います。貸出を御希望の方はエネルギー委員会西村のメール

<mailto:kenisimura@jcom.home.ne.jp> まで御連絡下さい

3RLCA委員会活動報告

3RLCA委員会 齋藤雅彦

3RLCA委員会の平成22年度の計画は、昨年度実施したコンポスト見学会の成果を神奈川県庁の担当部署にPRし、この新しいHMDシステムを更に展開し廃棄物の有効活用を推進する活動を行う計画です。

又昨年計画し実施出来なかった下記の「カーボンフットプリントの講座」を今回開催実施致しましたのでご報告いたします。

1.「カーボンフットプリント」について下記通り講習会を開催致しました。

2.カーボンフットプリント(CO2の見える化と表示)の講習会

(1)開催月日時間:平成22年4月24日(土)午後14時~16時

このテーマは商品のライフサイクル全般にわたって排出された温室効果ガスをCO2排出量に換算して表したものの「炭素の足跡」と云う意味で、商品パッケージなどにCO2排出量をラベルに表示して「見える化」することです。事業者の温暖化抑止への取り組みを消費者にアピールし、環境に配慮した購買行動を促す為に用いられます。

記

(2)場所:かながわ県民活動サポートセンター会議室306号室(3階・30名)

(3)講師:㈱リサイクルワンにおけ

るフットプリント専門講師：上野晃世

- (4) カーボンフットプリントとは：
CO₂の見える化と表示
定義：商品のライフサイクル全体（原材料調達から廃棄・リサイクルまで）で排出された温室効果ガスの排出量をCO₂に換算して、当該商品に表示する仕組み。

目的：

サプライチェーン全体の排出量を『見える化』することで、削減効率の高いポイントを把握。構成する事業者が協力してCO₂削減に向けて更に努力する。

消費者による消費、使用段階でのCO₂排出量を自覚し、低炭素な生活への変革を促す。

『市民活動研究会』活動報告

木村隆男

地域に密着した組織的な市民活動を立ち上げることを目的とした『市民活動研究会』が発足してから約1年が経過しました。この間の活動をふりかえり、2010年度の活動計画の概要を述べます。

『研究会』の役割は、モデルとなる活動を企画・実施し、運営のノウハウを含めて各地域（支部）へ移管することです。数回の意見交換会を経て“環境考察会”を提案し、9月に大磯丘陵、11月に函南原生林でパイロット事業として実施し、それぞれ10～15名のKECA会員を含む市民の参加を得ました。また、KECA会員とともに新たに県央と横浜で二つの考察会コースを開拓しました。さらに考察会の内容をより深く理解するため、コース毎のテキスト（リーフレット）を作成しました。今年度の成果を一言で述べると、われわれの活動がKECA会員に認知されたということになるでしょう。そのいっぽうで、いくつかの課題も顕在化しました。活動に“環境考察会”という名前をつけましたが、われわれ自身も

その内容をまだ明確にすることができていません。自然観察がベースになりますが、これと環境カウンセラーの能力を結びつけ、新たな環境保全活動へ展開することをめざしていますが、いまだ情緒的な段階にとどまっています。また、今年度の考察会は西湘支部との共催で行いましたが、活動の地域（支部）への移管にもいくつかの課題があります。特に、活動を企画し実施する会員（委員）の数が不足しています。

このような状況を考慮して、2010年度は3回の環境考察会の実施とこれを企画・実施する指導者（ファシリテーター）の養成を活動の中心に据えます。この活動の中で、活動内容の明確化と活動の地域への展開を図っていきたいと考えています。

市民活動研究会では委員を募集しています。おたがいの動機や問題意識と合意形成を尊重し、多くの市民や会員が参加できる楽しい活動へと展開することをめざしています。ぜひご参加ください。

広報委員会報告

広報委員会委員長 玉川達久

1. 活動状況(下期)報告

1-1) 広報委員会(臨時)の開催

日時: 2009年10月29日13時

場所: 横浜市市民活動支援センター(4階)

出席者: 9名

1-2) 広報委員会(第3回)の開催

日時: 2009年11月28日13時

場所: KECA事務所(会議コーナー)

出席者: 5名

2) KECAニュース40号の発行及び配信・配送

発行日: 2009年8月29日

配信: KECA会員へメール送信(138人)

配送: 関係諸団体へ送付(151部)

2. 実施体制

今年度下期は下記の体制(7名)で進めました。

- ・ 広報委員長 = 玉川達久。
- ・ 副委員長 = 今泉 奉。
- ・ KECAニュース担当 =
正) 嶋田和夫、
副) 岸川浩一郎、
岩村順雄。
- ・ ホームページ担当 = 正) 西村堅一郎、
副) 上野秀一。
- ・ 環境らしんばん担当 = 岸川浩一郎
- ・ その他、催し物は各支部・委員会等で従来

通り担当して戴きました。

体制強化のため新たなメンバーの募集を行っております、会員の皆様の協力をお願いいたします。

3. KECAニュース(40号)について

1) 発送数は、行政商工等=42件、カウンセラー等の全国組織=42件、企業等=67件、その他=2件の計153件です。

2) KECAニュース発行マニュアルの整備
発行業務のリスク対応力強化の為に「KECAニュース発行マニュアル」を随時整備しております。

3) 41号の発行について

発行予定日: 2010年4月24日

当初4月3日予定でしたが変更になりました。

4. ホームページについて

1) ホームページのリニューアル

KECA ホームページの現状改善を図り体制の再構築を進めました。

(<http://www.hamakko.or.jp/~37keca/>)

2) HP活用の促進と体制

広報委員会のHP担当として西村様と上野様を中心に進めて戴きました。来期は岩村様に加わって戴きます、今後も協力者の増員を図っております、会員の皆様にご協力をお願いいたします。

運営ルール等を随時整備する予定です。

会員の投稿

E A21 コンサルタントについて思うこと

県央支部 古川 輝夫

事業所内外の環境整備がきちんとできていることは、会社のイメージを高め、あるいは取引先から信用を落とさないために大切です。環境問題への取り組みができています。

ある意味では環境整備や環境問題というのは、会社にとって会社の顔ではないでしょうか。

ムダ、ムリ、ムラは、経営にとっては、最大の問題課題であります。特に、ムダはマイナスに思えても、社員のだれかが恩恵に要するものであれば、ムダとはいえません。

ムダには、2種類の視点があります。

1つは、資源やエネルギーの消費を抑えること。

人のいない部屋やトイレの照明を消したり、燃費のいい車に乗ることや材料を浪費しないことをいいます。

一方、社員や顧客が安全で快適に過ごすための燃料や電力などについてはプラスのムダといえます。これは良いムダであり、許されるムダの一つともいえます。

自分達の生活の快適さにつながるものであれば、人間はおのづと一生懸命になります。

環境問題の解決策として、整理、整頓、清掃、清潔、しつけの基本であり必須です。

これは決して特別なことではありません。EA21 を取り組むためには欠かせないものです。できてあたりまえのことであり、できないことはありません。

当たり前のできない会社では経営理念とか、経営方針や環境方針など、いくら唱えても、社員にいきとどかず 行動として徹底されるはずありません。

5S は人間の知恵の源泉です。なぜなら、実際に自分達が体を動さないとできません。

実際に実施した体験から改善の知恵が発揮できる場でもあります。

5S を徹底した結果、何に対しても気づきがよくなり、気配りの力・改善が養われます。

5S を続けることにより環境保全是勿論のこと顧客の満足度を高めることとなります。つまり CSR の基盤になるからです。

また、適切な社内コミュニケーションは経営にとって大変有効な要素の一つです。

朝礼や月礼、社内報などにより、会社や社会情勢を社員に知らしめることが大切である。

朝礼には参加する人からスピーチをする人を日替わりで変えてみることも活性化です。

経営者は個々の社員に話すことができないので、一同に会して理念を伝える機会を積み重ねて周知徹底ができることがより有効な手段の一つです。

その内容は会社のあるべき姿を再確認して、毎日の行動に移してもらうことが目的です。

経営者は理念や価値感社員と共有していることがより大切なことであると思われる。

経済状況が厳しい中で、特に、中小企業は生き残れるために、日々生活をかけて、改善にチャレンジを継続している姿を見るにつけ、コンサルタントとしては、何か経営に役立つことができるように支援・指導のやり方を工夫していこうと日々考えている状態です。

会員の動向

今回から新たに入会された会員の自己紹介をお願いしました。

横浜支部 平野 雅明さん

環境管理委員会に所属し、横浜支部に入り活動を開始しました平野です。三菱重工業の関連会社である菱日(りょうにち)エンジニアリング(株)に勤務し、ごみ焼却炉の設計に携わっています。以下環境キーワード2点に絞りプロフィール等を述べます。

温暖化防止:「エコアクション21」に取り組みます。昨年審査人認証登録試験を受験し、今年から審査人としてデビューしますが、何分「若葉マーク」ですのでまずはオブザーバーの経験を積みたいとよくお願いします。専門分野は「廃棄物処理・リサイクル業」と「建設業」です。

生物多様性:趣味でトンボを追いかけています。三浦半島を中心に「トンボの眼から見た環境」をテーマに観察しています。昆虫好きの方、情報交換をお願いします。

横浜支部 石黒 芳樹さん

このたび、入会させて頂くことになりました、石黒芳樹と申します。

私は、環境カウンセラー・事業者部門に登録をしていて、中堅電機メーカーのマネジメントシステム事務局で仕事をしています。環境関連での、現在の仕事は、ISO14001のシステム構築、運用管理、人材育成

(eco 検定対策講座講師、内部監査員養成講座講師、一般社員研修講師、管理職研修講師)、内部監査(品質、環境、労働安全衛生、CSR)、という分野になります。

『自ら企業や社会に働きかけ、企業と社会を活性化させる立役者となる人材育成。』を自

分の使命と考えて、社内外で活動をしています。何卒よろしくお願い致します。

横浜支部 小林 重喜さん

K E C A 会員の皆さん、今日は。今回 K E C A に加入いたします小林重喜と申します。

お見知り置きのほどよろしくお願い致します。

私は事業部門の環境カウンセラーとして登録しております。

現在は中堅電子部品メーカーで環境管理関連業務のコンサルタント業務を受諾して活動しております。

市民部門では横浜地区のボーイスカウト連盟下の支部でカブスカウトの指導者として子供たちに活動を通して微力ながら環境意識の啓発を努めているつもりです。

最近、『EMSの有効性』について議論されていますが、EA-21の審査について大変興味を持っております。K E C A ではその辺のところから勉強してゆきたいと思っております。

横浜支部 川端 自人さん

横浜市港北区に住んでいる川端自人です。NPO 樹木・環境ネットワーク協会の理事をしています。

協会での活動が中心で、複数のフィールドで楽しい里山活動の実践をしています。

その経験をベースに里山・緑地保全活動の企画・運営に関するアドバイスなどを行っています。

また自然環境学習の講師を、大学や地域学習センターなどで務めさせていただいています。

活動の幅を広げたく環境カウンセラーに応募しました。

本職は植木職人(樹木医)です。よろしくお願いいたします。

川崎支部 高橋 利夫さん

新入会員の高橋利夫です。

私は1973年に電機メーカーに就職し、機器の設計・製造を担当しておりましたが、2001年から本社の地球環境部長を務めました。

従業員の環境教育やISO14001認証のグループ統合をはじめ、グループ全体の環境施策(工場の環境対応、製品の環境対応)の立案・実行を進めてきました。

環境カウンセラーは、2007年に事業部門で登録しました。

2008年から大手小売業の環境部門のスタッフとして、店舗・設備の省エネ・地球温暖化防止を担当しています。昨年、エネルギー管理士の免状を取得しました。

今後は、ISO14001環境マネジメントシステムを活用して、企業の環境活動全般のお手伝いできればと考えております。

相模原支部 藤原 政志さん

新年度からKECAに入会させて頂くことになりました、事業者部門に登録している藤原政志と申します。現在、企業には所属しておりませんが2008年12月まで半導体メーカーに勤務しておりました。

当時は、環境管理と労働安全衛生管理全般を担当し、主にEMSの構築と運用管理、特に公害防止管理者や各種法定責任者に選任されていたこともあり気の抜けない状況下で業務を行っておりました。現在は、企業に勤務していた頃から継続している活動もありますが、主にはエコアクション21普及活動、環境関連法令の調査、廃棄物処理法セミナーの講師等を行っております。

環境カウンセラーは、現場で困っている人のサポーターと考えております。

多少なりとも手助けできればとの思いから入会を決意しました。宜しくお願い致します。

相模原支部 吉住 祐輝さん

湘南支部 小林 隆さん

仕事の都合で休会になりました。

事務局便り

2009年度、環境教育委員会が主体で取り組んだ小中学校等への環境出前授業や、市民団体が主催することになった初めての「市民環境活動報告会(第16回)」にKECAも主催側の一員として参画し今後の方向付けができたことは、何れも大きな成果でした。また、環境管理委員会の活動では、エコアクション21の自治体イニシアチブプログラムが本格化し、関係企業グリーン化プログラムが始動したことは特筆に値します。

そして今後の更なる進展が望まれます。

各支部でもそれぞれ独自の活動テーマを掲げあるいは模索しながら、環境カウンセラーかくあるべしといった活動の展開が見られた反面、支部によっては地域の市民を巻き込んだ本来あるべき姿の活動になってい

たか、そしてKECAが目指す目的に叶った活動になっていたかを自問する必要があるそうです。他方、支部間の交流では、イベン

トの開催案内や出展等への協力要請の形で更なる広がりが見られるなど望ましい姿が見られました。

バリアフリーフェア2009では、生物多様性をテーマとしたパネルやサンプルを展示したり、KECA会員が初めてステージイベントに参加し活動事例発表を行いました。直近の市民活動フェア2010でもブースでパネルやサンプル展示、地球温暖化防止の啓発DVDの上映等を行いました。フェアへの一般市民参加が今一つであったことも影響して盛況とは言えなかったのは今後の課題として残りました。

先般、環境省が農山村の荒廃に伴う生態系の損失を防ぐため、農地や人工林などいわゆる里地里山を対象とする保全計画案をまとめたとの報道がありました。10月に名古屋で開くCOP10を見据え、地方自治体やNPO等と連携して実行に移す由、KECAでも行政の施策に協力できる地域があるのではないのでしょうか。今後の動きに注目したいものです。一方、国の制度に先がけて4月から東京都で温室効果ガスの排出量取引制度が始まりました。いわゆるキャップ&トレードが義務化され、CO₂排出量の削減が罰則のある義務として課されることとなります。やがてこの排出量取引は首都圏全体に広がる可能性も高く、今後の動きに注目する必要があります。何れの動きも、我々環境カウンセラーとしてまたKECAとしてどう対応すべきか、十分に検討しておく必要があるように思います。

2009年度の活動も残りわずかとなりました。実質的には総会に始まり2010年度の総会準備で幕を降ろすこととなりますが、今後のKECAの活動を左右する事態に直面した年、即ち「入るを量りて出づるを為す」運営に徹すべきことを再認識させら

訃報

本会員で横浜支部の志賀正良様は昨年十二月十一日病をえて逝去されました。享年七十九歳です。

志賀様はKECA創立の時の初代理事長を務められ、以来KECAの基礎固めから今日の発展まで大変な力を尽くされました。

ここに謹んでお知らせするともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌

れた年でもありました。ある企業経営者が通奏低音にあるものとして、4つの「し」と5つの「ション」を取り上げていました。前者は省きますが、後者は、ビジョン（構想）、パッション（情熱）、ミッション（使命）、アクション（行動）、デシジョン（決断）です。5つの「ション」を念頭に置きながら、2010年度が成熟した組織の新たな船出の年となることを祈念します。

木村信幸

編集後記

校正作業は中学での新聞発行以来55年ぶりです。

地域と密着している支部のニュースからはその土地のこどもたちの声、里山の草やみなとの潮風のかおりまでつたわってくるよう楽しんで作業することができました。

(N・I)

ある意味発行側の勝手な都合で、ソファーにふんぞり返り多少のわくわく感を抱きながらKECAニュースをぱらぱらとめくる楽しみを奪ってしまっていることを申し訳なく思います。携帯端末から読む時代との中間期にあつて

(K子)

今号は記事が多く30ページになりました。原稿をたくさんお送り頂きありがとうございました。

こんなに原稿が集まったのはKECAニュース始まって以来の出来事じゃないかしら。

各委員会や支部における会員の皆様の活動が充実してきた証しで喜ばしい限りですね送られてきたものはすべて掲載しようということになり編集局は大忙し。それでも4ページ分は次号回しとなりました。

どの文章からも会員の皆様が元気に楽しく活動されている様子がうかがえて編集の仕事も楽しくできました

ページ数が増えると紙面でも画面でも読むのが大変になります。

ホームページや電子メールによる速報との仕分けが必要ではないかと考えています

(嶋田和夫)

発行 特定非営利活動法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)

〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6F NPOスクエア内

理事長 杉浦 弘祐

事務局長 木村 信幸

TEL : 045-226-5822 FAX : 045-226-5825

E-Mail : 37keca@hamakko.or.jp

URL : <http://www.hamakko.or.jp/~37keca/>

当協議会は環境省に登録された環境カウンセラーが市民、事業者、行政その他の関係機関に対してさまざまな支援活動を行っています。